

京都経済4団体による職業教育協力講義 龍谷大は「企業CSR実践論」で授業 立命館大のプログラムも始動

京都経済4団体共同によるパイロット事業、4大学(院)における職業教育協力協議は、龍谷大学でも6月11日、18日の2回の授業が行われました。京都産業大学は引き続き、毎週木曜に授業が行われています。とくに6月14日には株式会社洛北義肢を訪問し、現場見学を含む校外授業が行われました。また、立命館大学の「グローバル人材養成プログラム」でも、企業協力による各種プログラムが始動しています。

龍谷大 第1回は中信・松岡氏

龍谷大では政策学部の「企業のCSR実践論」(担当教員=勝山享講師)において協力授業が行われました。この講座は、“CSR(いわゆる企業の社会的責任)”の観点から、企業が社会的な課題に対して本来業務の専門性を活かして解決に取り組んでいる事例を学ぶことを趣旨としています。平成23年度からの継続講座です。4月から7月までの全15回の授業(毎週月曜開講)のうち企業関係者の授業は9回で、その中の2回を経済4団体が受け持ちました。他の7回は(株)ワコールホールディングス、(株)島津製作所、大日本スクリーン製造(株)、(株)堀場製作所、オムロン(株)など、前年からの企業が引き続き協力しています。

経済4団体が受け持ったのは第9回、第10回で、6月11日の第9回は京都中央信用金庫の常務理事の松岡輝氏、同18日の第10回は株式会社ウエダ本社代表取締役社長・岡村充泰氏に登壇していただきました。



「本業のすべてがCSRにつながっている」と松岡氏

中信の松岡常務理事は、信用金庫には“地域で集めたお金を地域のために使う”という設立主旨・使命があり、本業のすべてがCSRにつながっているとして、単に顧客からおカネを預かり、それを貸し付けるだけでなく、①ベンチャー支援、②地域活性化、③環境関連一などの取り組んでいることを、具体例を挙げながら紹介しました。そのほか、地域貢献として、本店が鉾町に所在するところから祇園祭への協力協賛、あるいは美術家支援など、京都ならではの活動を行っていることも述べました。

受講した学生からは「信用金庫のイメージが変わった」「嵐山の活性化のため温泉掘削事業も手がけていたとは驚き。CSRとは幅が広いのだと思った」などの感想が聞かれました。

第2回 ウエダ本社・岡村氏

6月18日の第10回は(株)ウエダ本社の岡村社長が担当。(株)ウエダ本社は事務機器やオフィス家具の販売を主事業としていますが、岡村社長のリードにより、環境などの社会活動(CSR)に力を注いでいることで知られています。

今回の授業でも“なぜ、それほど熱心にCSRに取り組んでいるのか”が関心の的でした。

これについて岡村社長は、「大手企業によるCSRの取り組みは本業と直接的なつながりがない場合が多い。しかし中小企業にはそのような（本業とかかわりがないような活動を行う）余裕はない」。「ただ、企業規模にかかわらず取り組まなければならない社会的課題が多いことも事実」として、「そうした状況のもとで中小企業がCSRに取り組むには、社会的課題への対応をビジネスにいかにかかすかを考えなければならない。自社（ウエダ本社）が扱い商品として“環境対応型”を増やし、それらの普及活動を行っているのも、そうした考えによる」と明快に説きました。

また、環境だけでなく京都への貢献について



中小企業におけるCSRのとらえ方を語る岡村氏(左)

も「中小企業は地域に役立ってこそ存在する意義が明確になる」として、環境を軸に人の生き方や社会の在り方について問題提起する催し、「京都流議定書」の取り組みを行っている理由と意義をアピールしました。

立命大「グローバル人材養成プログラム」に5社が協力

立命館大学へは、教学部・国際部・キャリアセンター共同実施の「グローバル人材養成プログラム」に経済4団体が協力しています。

同プログラムは、日本企業が求めるグローバル人材像に沿って、社会人としての基礎力、課題や人間関係についての対応力などを、企業や経済界の協力も得て育成することを目指しています。平成23年度から始まったプログラムで、正課でないにもかかわらず受講希望者多数で、定員50人に対する競争率が高いのが特徴です。また、外国人留学生を考慮した内容としたことから、前年度実績では過半数を留学生が占めました。

前年度、50社以上の企業が協力していますが、ほとんどが京都外だったため、今年度について経済4団体に協力要請がありました。

今回、協力いただくのは次の5社です。

○ **(財)池坊華道会**（華道家元池坊総務所）

- ・ 6月16日(土)、池坊会館 *実施済み
- ・ ホスピタリティに関する学習を目的に、六角堂見学と「池坊」の歴史について聴講、い

けばなデモンストレーション見学など

○ **サムコ株式会社**

- ・ 7月13日(土)、立命大BKCKキャンパス
- ・ 総務部課長 八田博文氏による講話、パネルディスカッション

○ **株式会社ユーシン精機**

- ・ 7月13日(土)、立命大BKCKキャンパス
- ・ 常務取締役 大立泰治氏による講話、パネルディスカッション

○ **株式会社ワコール**

- ・ 9月に国内で外国人留学生24人がワコール訪問・見学(施設見学や社員との交流)、同時期に日本人学生32人が上海拠点を訪問・見学(同)
- ・ 8月から11月にかけてPBLに協力

○ **京都信用金庫**

- ・ 9月に国内で外国人留学生24人が京信訪問・見学(施設見学や社員との交流)、同時期に日本人学生32人が上海の出先機関を訪問・見学(同)
- ・ 8月から11月にかけてPBLに協力

京産大授業は毎週

第7回 淡交社・平井氏

京都産業大では4月19日以来毎木曜に、経済4団体の協力による法学部の「グローバル人材論特殊講義」（担当教員＝中谷真憲教授）が行

.....

「京都の魅力を伝えることが使命」と平井氏



われています。5月31日には第7回として株式会社淡交社の取締役専務執行役員の平井信氏が「京都から日本文化を発信する」と題して講話しました。

(株)淡交社は、裏千家15代家元・千宗室氏(現千玄室氏)の実弟、納屋嘉治氏(京都経済同友会・元代表幹事)が創業した出版社で、茶道月刊誌の『淡交』や『なごみ』、そのほか京都の芸術・芸能に関する書籍、美術書の発行元として知られています。

平井氏は、まず日本の出版界の動向や京都地区に所在する出版社(滋賀県を含め131社)の活動の様子と、自社が「茶道に関する専門書と茶を軸にした日本文化に関する書籍の出版」を特徴としていること述べました。また、最近では関連事業の多角化を推し進め、茶道に付随する物品の製造販売や茶室の設計・施工・室内装飾、文化講座なども手掛け、「茶道を中心とした総合商社」を志向していることも紹介しました。

そのうえで「茶道書では日本一、つまり世界一と自負している。社員にもプライドを持たせ、創業以来60年の信用を守るとともに、新たに構

築していく」「淡交社ならではの本をつくり、京都の魅力を伝えることを使命としていくと」、展望を明確に語りました。

さらに、受講者である学生に「出版社志望の学生は多いが、最近の面談では出版社での仕事に対する目的や希望を明瞭に持っている人が少ない。出版社の採用人員はわずかであるがゆえに、本や雑誌に深くかかわりたいという意欲を強く持つことが大事」とエールを贈りました。

この後、中谷教授の指導により「日本の伝統文化(特に美)を若い人に広めるための出版の仕組みを考える」のテーマでワークショップが行われました。

第8回 大垣書店・大垣氏

続く第8回は6月7日、株式会社大垣書店の代表取締役、大垣守弘氏により、「電子書籍と大垣書店の経営戦略」の講義が行われました。

大垣氏は、書店・出版社を取り巻く厳しい環境変化と電子書籍の動きについて述べた後、京都をはじめ大阪でも新規出店を続ける自社の

.....

“活字離れ”が広がる中で書店経営の展望を語る大垣氏



戦略と考え方を展開しました。

その中で大垣氏は、「心と知識を広げてくれる本は、いつの時代にも無くてはならないものである」との信念のもと、「地域で必要とされる書店であり続けよう!」の社是に沿って既存店舗のブラッシュアップを行い、また、必要とされる地域に新規出店を続ける意志であることを強調しました。

第9回 洛北義肢・坂本氏

6月14日の第9回は、岩倉キャンパスを飛び出し、北区原谷の株式会社洛北義肢を訪問、現場で校外授業を行いました。

受講生は午後5時過ぎに(株)洛北義肢の原谷第一工場に集合し、6時まで現場見学。その後、同社会議室で副社長の坂本明信氏から「必要な人に必要とされるものを必要なときに」と題した講話を受けました。

(株)洛北義肢は文字どおり、義手・義足などの義肢装具、スポーツ用装具、コルセットなどを受注製作しています。その製作現場を見学した受講生は、義足など生々しい義肢装具を前に、やや戸惑った様子でした。しかし、高齢化や、ますます複雑・機能化する社会にあって事故・病気リスクが高まっているところから、多くの人がこうした装具に頼らざるを得なくなっていることもあり、真剣に見入っていました。また、こうした装具は、それを使用する人にフィットしたものでなければならないので、まさに、その人の立場にたって仕上げる必要があるとの説明にも大いに納得していました。

坂本副社長の講話も、こうした事業に携わる者の志がストレートに伝わってくる内容でした。さらに、自身の経歴も述べ、少しやんちゃな少年時代だったけれど、英国留学や友人との交わりを通じて現在の仕事に使命感を持つようになったことなどを紹介し、受講生を大いに励ましました。



「社会貢献の結果として給料をいただいている」と坂本氏



受講生らは現場見学でモノづくりと一品一品への心の大切さを実感しました

今後の京産大 授業日程と講師

- 6月21日 佐々木茂喜氏
(株)エリッツ 常務取締役
- 28日 西村永良氏
西村証券(株) 取締役社長
- 7月5日 平岩孝一郎氏
(株)京都ホテル 代表取締役社長

同志社大院での協力講座は11月

経済4団体の協力講義の一つ、同志社大学大学院で行う「地域力再生実践論研究」(担当教員=今川晃教授)は秋学期で、担当する授業は11月15・22日、12月6日の3回です。講師は現在依頼中です。